

根菜類の栽培利用が最良策

…五

冬期間の多汁飼料として根菜類特に家畜ビートと、かぶの利用を奨めたい。いずれの家畜でも冬期間に生鮮多汁の緑飼を求めるが、特に乳牛の場合その必要度が高い。家畜ビートやかぶは、ゲイタミンの含量が多いので、家畜の栄養向上に役立つばかりでなく、水分の給与が豊富となるから乳量の増加も著しい。特に緑草のない冬期間の長いところでは、絶対なくてはならないものである。それではどれくらい作ればよいか!! 北海道のように半年雪の下にうずまれるところでは、やはり半年分の給与量を確保しなければならぬ。そこでビートとかぶの両方でこの半年を賄つてゆくのがよいと思う。それはかぶは非常に作り易いが貯蔵力がビートに比較しておちる。ビートはなかなか作り方が面倒なところがあるので、両方を作つてうまく利用することである。そこで乳牛一頭に対しての給与量は一日大体八貫くらいと見ればよいから、半年分として千五百貫もあれば十分である。(かぶの場合は、ビートの二―三割増くらいは給与が必要である)家畜ビートは上手に作れば反当三、四千貫の収穫はあるから、乳牛一頭に対し五畝歩もあればよいことになるから、乳牛飼育の方には是非共計画的にビートとかぶの作付をお奨めする次第です。つぎにビートとかぶの品種や作り方の概要を記して参考に供したい。

家畜ビートについて

一品種

1 シュガーマンゴールド 根はやや長目の紡錘形で、その約四割が地上に露出し地上は緑色、地下部は白色である。肉質も白く緻密で貯蔵性に富み、収量も多い。

2 マリエンリスト 根はやや短い紡錘形で、外皮は桃色、質は硬い、乾物量及び糖分多く、収量は少ないが貯蔵性に富む。

3 ハーフシュガー デンマーク産のハーフシュガーは、砂糖用ビートとの交配種で、数種の品種があるが、橙色で多収のエローと皮肉共に赤色のレッドの二種が適品種である。いずれも在来種に比して含糖率極めて高く貯蔵性に富むものである。又特にホワイトは在来種に比して一般に小型で根収量は少ないが、栄養成分濃厚で肉質緊密なので、収穫、貯蔵が容易であり、家畜の嗜好も極めて良い。

二 栽培利用上の注意

ビート栽培は肥沃な土地を選び多肥栽培で小面積から多収獲することがコツである。したがって土地は畑中で最も肥沃なところを選ぶことが大切である。また排水が良好で石灰分に富んだところがよい。肥料はまず堆厩肥を反当千貫くらい施して、表土はできるだけ深く耕し、硫酸またはチリ硝石を反当五、六貫、過石七、八貫、加里一、二貫、できれば魚粕三、四貫くらいを基肥とする。畦幅、株間は二尺×一尺くらいがよい。種子は反当二听前後を準備し、立枯予防のためセレンサン消毒をするとよい。また種子は化学肥料に直接触れないようにし、覆土は極力薄くすることが肝要である。発芽後本葉二枚くらいのとときに間引をして一本立とする。なお播種期は融雪早々がよい。運播は成績が悪い。管理としては稚苗時地蚕の防除、生育期には青虫、夜盗虫、褐斑病の予防のため毒剤加用のボルドー液を二―三回撒布するとよい。また除草中耕も早目に二―三回行うとよい。追肥の効果も顕著であるから、できれば牛尿等を施すことがよい。

収穫と貯蔵では、まず茎葉は根部の肩の所で切り落して飼料に与え、根部は凍結しない程度の冷凍な地下倉庫に入れるか、設備のないところでは屋外に深さ一尺くらい、幅三―四尺の長方形の穴を掘り、これに堆積し、多雪温暖地では五寸

かぶの作り方と利用

かぶは家畜ビートと並んで家畜の嗜好大なることで飼料用根菜の代表的なものである。かぶには非常に取上げる特徴が多い。すなわち、

- 1 土地を選ばない。
- 2 生育期間が短かいから土地の利用上有利である。
- 3 寒暖いずれの地帯でも作れる。
- 4 冬期間の貯蔵によく耐える。
- 5 春早く蒔いて青草の夏枯れ時期にも利用できる。
- 6 まくとときを除けば粗放な管理でも生産できる。



家畜ビートの貯蔵作業、品種はハーフシュガーレッド

7 反当のたね代が非常に安い。
 というようなことは全く魅力的でしかも家畜は非常に好食し、特に乳牛に給飼すれば著しく乳量を増加するから極めて経済的に有利な作物と言えらる。次に弊社が自信と責任を以て推奨できる代表的品種を紹介したい。

一品種

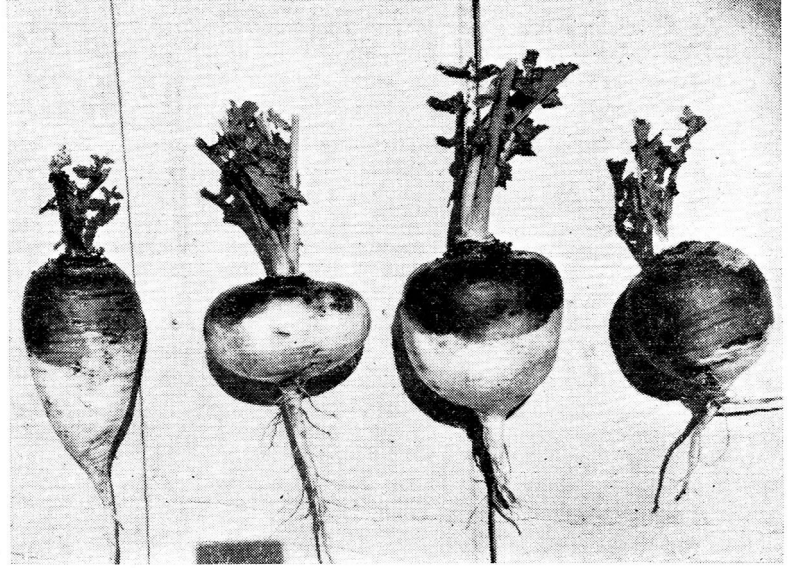
1 雪印改良紫かぶ 北政産のパーアルトツプを材料として、多収で貯蔵力の大(肉質堅密で乾物量の多いもの)なるものの育成を改良目的として選抜淘汰をしたが、図に示すような円形厚肉のもの育成に成功したもので、地上部は濃紫色、地中部は純白、肉質は緻密、生長早く豊産である。東北、北海道は勿論、中部山岳酪農地帯や暖地でも冬作を晩く播く地帯でも歓迎されている。八ヶ岳附近でも好評を博している。また本種は春播いても花立ちがない。北海道では春まいて夏に一回利用するのに適している。収量は普通の紫かぶの約二倍に達する。

2 下総かぶ 下総の御料牧場で多年改良されたもので、地上部は緑、地中部は白色で扁球形で、根重に比し、葉の量が多い。肉質も堅く暖地のかぶとしては最優良品種である。

二 かぶの栽培と利用上のコツ

かぶは何時まくか、これは府県の場合は問題だ。かぶの生育日数八五日前後から割り出して、かぶの生育上最良の気温(〇五度以上〇二〇度以下)のときに当てはめればよいことになるが、これは地帯によつて条件がちがうからそれぞれの立地条件を考えて播く時期を決めればよい。北海道の場合は、春と夏の二回播いて利用することができる。春は五月中、下旬、夏の場合は七月下旬から八月上旬までがよい。夏の場合には特別おくれないようにしなければならぬ。

かぶを播く畑は、堆肥等は前作物に多めに施用しておくことが望ましい。金肥は反当過石六―八貫、硫安三一四貫施用するとよい。また播種前に牛尿反当四―五百貫くらい撒布すれば非常に増収する。種子は反当三合くらいでよい。畦幅を一尺八寸乃至二尺く



紫丸かぶ (普通種)

雪印改良 紫丸かぶ

紫丸かぶ

パーアルトツプ ロングレッド

らいに条播するかまたは株間七、八寸乃至一尺くらいの点播とする。種子を厚く播くと種苗時に弱いひよろひよろした苗立ちとなつて、生育が芳しくないから、上手に薄播きをするように留意すべきである。播く日は空模様を見て降雨の前夜を選ぶようにすると発芽が整一となり爾後の生育もよい。間引は本葉二―三枚のときに一本立とする。間引がおくれないうにすることが多収獲の要点である。また本葉七、八枚の頃牛尿や下肥等二百貫くらい追肥すると肥大最盛期であるだけに一層増収が期待される。

収穫貯蔵は北海道では大体家畜ビートに準じてよい。暖地では土寄せをして防寒すると二月末から三月上旬まで圃場で冬越しをしながら給飼できる。かぶの給飼量は乳牛に対しては日量一〇貫前後まで与えてよい。

雪印の乳牛用完全配合飼料

戦後わが国の酪農は食糧の国内自給態勢の確立という大使命を担つて急進的発達を見たりますことは真によるこぼしき事でありますが、乳製品市場の景況は昨年来必ずしも安心のできない悪条件が累積しております。

酪農家の各位はこの悪条件下にも微動だにしない態勢を確立するため、経営の合理化を図り、牛乳の生産コストを引下げて、乳価の変動による恐慌から一日も早く脱却して、経営の安定を図らねばなりません。

そのためには何といても飼料価値の高い良い基礎飼料を豊富に生産すること、不足する栄養分を最も合理的に補給することによつて解決しなければならぬ。

弊社はこの見地から飼料単位の高い、可消化蛋白に富んだ『乳牛用完全配合飼料』を製造して全道酪農家の皆様から多大の好評をいただいております。何卒集乳所、あるいは工場を通じ、御用命下さるようお待ちしております。

一 雪印の乳牛用完全配合飼料の特色

- 飼料単位の高いこと。
- 可消化蛋白の豊富なこと。
- 原料が新しく芳香に富み家畜の嗜好に適すること。
- 貯蔵性に富んでいること。
- 包装が完全なること。
- 価格が安価経済的なこと。

二 種別並びに飼料価値

乳牛用二号 十貫匁(三七・五匁) 当 一匁一三〇瓦

一飼料単位当重量 二〇〇瓦

単位当可消化蛋白質量

カルシウム 二% 二〇〇匁(七五〇瓦)

食塩 1% 一〇〇匁(三七五瓦)

乳牛用三号 十貫匁(三七・五匁) 当 一匁一六〇瓦

一飼料単位当重量 一八〇瓦

単位当可消化蛋白質量

カルシウム 二% 二〇〇匁(七五〇瓦)

食塩 1% 一〇〇匁(三七五瓦)

三 包装と容量

1 正味十貫匁入または麻袋入

2 正味四貫匁紙袋入

四 価格……集乳所または工場でお尋ね下さい。

五 製造工場

江別市一番町南一丁目 雪印種苗株式会社江別飼料工場